

五歳児の表現の姿 —「ピアノふれあい体験」を通して—

木 下 由 香

(2017年12月27日受理)

Appearance of the Five-Year-Olds of Expression —Through “The Piano Contact Experience”—

Yuka KINOSHITA

要旨：新幼稚園教育要領に示された「幼児教育において育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、「ピアノ探検隊」として子どもが主役となって活動する「ピアノふれあい体験」を行ったところ、音楽経験のほとんどない園児たちは「ピアノ探検隊」の参加に関係なくピアノに対する高い関心を示した。ある程度の音楽経験がある園児たちは興味・関心が素材や構造的なものに移行していること、また集団による学び合いが生まれたことなどが明らかになった。

Key words：幼稚園教育要領 領域「表現」 音楽表現 五歳児 ピアノ 興味・関心

1. はじめに

平成30年度より実施される〈幼稚園教育要領〉〈保育所保育指針〉〈幼保連携型認定こども園教育・保育要領〉が示され、「幼児教育において育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確化された。「豊かな感性と表現」には、「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。」と明記されている。¹⁾

「ピアノふれあい体験」²⁾は、五歳児の子どもたちがピアノと楽しくふれあい、ピアノに興味を持ち、継続的にホールに足を運ぶきっかけになればという願いが込められている。幼児期から本物の音楽に触れ、豊かな感性を養うことを目的とした子ども向けコンサートが活発に開催されるようになったのは1990年代後半以降であるが、³⁾これらのコンサート内容は年々趣向が凝らされ、幼児の視覚優位を利用した絵本とのコラボレーションや、手遊びやリズ

ム遊び、合唱、楽器体験など幅広い参加型プログラムが増えてきている。今回筆者は、子どもが主役となって参加し、皆の前で感じたことや考えたことを自分なりに表現し、それらを共有して学び合える機会となるようなプログラムを考え、「ピアノ探検隊」として実践した。体験会では、子どもの目線からピアノという楽器がどのようなものなのか探っていくような流れを工夫した。

2. 目的と方法

(1) 目的

「幼児期に育みたい資質・能力は、小学校以降のようないわゆる教科指導で育むのではなく、幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、感性を働かせてよさや美しさを感じ取ったり、不思議さに気付いたり、できるようになったことなどを使いながら、試したり、いろいろな方法を工夫したりすることなどを通じて育むことが重要」であり、こうした幼児期の特性を踏まえて次の三つの柱が掲げられている。⁴⁾

①豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」

②気付いたことや、できるようになったことなどを
使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」

③心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

以上の観点を踏まえて、子どもたちが「ピアノ探検隊」として体験できるプログラムを考案した。探検隊の子どもたちには筆者が質問などを投げかけ、それに対して子どもたちが主体的に考え、自分なりに言葉や動きなどで表現できること、そしてそれを客席に座って見ている子どもたちと共有し学びあうことを目的とした。

(2) 対 象

A町の三つの保育園の五歳児62名と、B幼稚園の五歳児78名

(3) 方 法

公演の全過程をビデオ記録に取り、筆者と園児らのやりとりを書き起こした。また、公演後に、各園にて振り返りの時間を設けていただきアンケート調査（集合調査）を行った。（尚、筆者はT、園児はCと表記した。）

3. 内 容

（図表1）参照。

図表1 『ピアノふれあい体験』流れ

| 進行 | 時 刻 | 舞 台 | 分 | 舞台セッティング (環境構成) | 内容 (予想される子どもの活動) | 備考(援助) |
|--------|-------------|-------------------------------------|------|----------------------|--|---|
| | 13:05 | 開演 | 0:01 | ピアノは蓋を閉めた状態でスポット | | ピアノは少し斜めに配置する。「うみ」の曲紹介。波の音や鳥の鳴き声が聞こえるかな？ |
| オープニング | 13:06～13:09 | 木下演奏 （「うみ」ピアノソロ） | 0:03 | ピアノの蓋を開けてみせてから演奏 | GPの最初の状態を初めて見る子どもも多いはず。黒い物体から飛び出す音色に興味を持ってもらいたい。 | オーシャンドラムで波の音を演出してからピアノ演奏開始 |
| | 13:09～13:12 | 木下（全員） | 0:03 | | 挨拶・約束事・じゃんけん | 「みなさん、こんにちは！…探検隊のお友達が発表してくれたら、みんなで拍手をしましょう。…」 |
| ピアノのお話 | 13:12～13:19 | 木下（探検隊A） | 0:07 | スクリーン・webカメラ | ピアノの特徴（色・形・材質）について質問し、探検隊が発表する。 | 補助台設置 |
| | 13:19～13:26 | 木下（探検隊B） | 0:07 | スクリーン・webカメラ・カラー消しゴム | ピアノ奏法の基本（ドの位置・タッチなど）に着目して、探検隊員にカラー消しゴムを乗せてもらう、など。 | |
| | 13:26～13:33 | 木下（全員） （ピアノでボディパーカッション） | 0:07 | | リズム遊び 「きらきら星変奏曲」より | 3グループセッション |
| | 13:33～13:40 | 木下（探検隊C） | 0:07 | スクリーン・webカメラ・オルゴール | 実験（ペダル・響板）をして、どのような変化があったか探検隊員が発表する、など | 静かにしてもらうために手遊び「おはなし」 |
| | 13:40～13:44 | 木下演奏（「リスト／愛の夢第3番」ピアノソロ） | 0:04 | | | |
| | 13:44～13:51 | MC（探検隊D） | 0:07 | スクリーン・パワーポイント | 動物あてクイズ！「動物の謝肉祭」に登場する動物のテーマを演奏し、何の動物を表しているかクイズを出して、答えてもらう。 | |
| | 13:51～13:54 | 木下演奏 （「サン＝サーンス／動物の謝肉祭より終曲」ピアノソロ） | 0:03 | | | 手拍子を促す |
| クロージング | 13:54～13:57 | MC | 0:03 | | 感想と振り返り | じゃんけん勝者2名あてる |
| | 13:57～13:58 | 終演 | 0:01 | | | |

4. 結果と分析

(1) 発言（行動）記録、及び分析

【A町保育園児】の事例①

図表2

| 発言(行動)者 | 発言(行動)内容 |
|---------|---|
| T 1 | みんなにはピアノを探検してもらいたいと思います。ちょっと触ってみようか？どんな形かな？ |
| C 2 | (弦を触って) ざらざらしてる。 |
| C 3 | (弦を指ではじいて) 音鳴っとる。 |
| T 4 | 台があるのでそれに乗って覗いてみてね。(他の子を促す) |
| C 5 | (内部をみて) 穴があいてる。 |
| T 6 | ホントだね。他に気付いたことはありますか？ |
| C 7 | (前の子の真似をして弦を撫でて音を鳴らしている) |
| C 8 | (響板の枠を人差し指で硬さを確認するようになぞりながら) 金色！ |
| T 9 | そうだね。ではありがとう。次はこっちに行ってみよう。 |
| C 10 | (まだしばらく触っていたい様子でなかなか動かない) |
| T 11 | (鍵盤を横から見て) ここから見たらどうなってる？ |
| C 12 | (徐々に鍵盤に視線を向ける) |
| T 13 | これって何だろう？みんなに教えてあげよう。何色と何色ですか？ |
| C 14 | (鍵盤を横から見て) 白と黒。 |
| C 15 | (みんな一斉に音を鳴らし出す) |
| T 16 | 楽しいね。 |
| C 17 | (ある子が高音【上四点トと上四点イ】を4つずつ鳴らす) |
| C 18 | (ある子が最低音【下二点イ】を一回鳴らす) |
| C 19 | (客席の子どもたちが一斉に笑う) |
| T 20 | なにが面白かった？ |
| C 21 | ドーン！ドーン！(子どもたちが何度も言う) |
| T 22 | なんでこんな「ドーン！」って音、出るんだろうね。どうしてだと思う？ |

C18における内容で、子どもたちは突然聞こえてきた低い音に耳を奪われ、すぐさま「笑う」という反応を示した。笑いが起きると、音を鳴らした子どもは嬉しそうな顔で何度も音を鳴らした。子どもたちの間で音と笑いのやりとりが生まれた。

五歳児になると擬態語、擬声語を上手に使いこなすことができるようになり、⁵⁾ C21の「ドーン！ドーン！」という表現は、それまでピアノから聞こえてきた優しい旋律とは違った激しい音色に意外性を感じて生まれたものであると考える。

【A町保育園児】の事例②

子どもの自己実現の過程には、「思いや願いをもつ段階」「主体的に取り組む段階」「思いや願いをやり遂げる段階」の3段階があり、その中で考えられる教師の援助行動は【発問】【指示】【提案】【仲介】【肯定】【否定】【行動】【賞賛】などが挙げられ、子

どもの興味・関心のもてる環境、課題について、子どもの心を揺さぶるような【発問】や【提案】で投げ掛けることが有効であることが分かっている。⁶⁾ 子どもの発言は短い。そのような発言をさらに深く掘り下げるような質問をT25、T27のように投げかけ【発問】、T29のように子どもが言いたいことをまとめて代弁することによって、子どもの理解をより明確にすることができる。これも環境構成の工夫の一つと言える。

図表3

| 発言者 | 発言内容 |
|------|---|
| C 23 | ピアノ鳴らすの楽しかった。 |
| C 24 | ピアノ触るのが楽しかった。 |
| T 25 | さわってみてどんな感じだった？ |
| C 26 | さわったら音鳴った。 |
| T 27 | どうやったら音が鳴ったの？ |
| C 28 | え？押した。 |
| T 29 | 鍵盤を押したら音が鳴ったんだね。 |
| C 30 | 足を踏んだら音が鳴らなかった。 |
| C 31 | あの～踏むところを押して～ピアノの白いところを押したら～なんかきれいな音が鳴った。 |
| C 32 | いろんな音が鳴ってきれいだった。 |
| C 33 | 下のところを押して～後ろの押したところの中のもの動いた。 |

【A町保育園児】の事例③

図表4

| 発言者 | 発言(行動)内容 |
|------|---|
| T 34 | 消しゴムをひとつずつ持ってくるかな？ 鍵盤に近づいて。右手チョキにしてププー！ (クラクションのように変二音と変ホ音を同時に弾く) |
| C 35 | (会場から笑い) |
| T 36 | ドレミのドの音を教えてあげるね。 ふたつの黒い鍵盤の左側にある白い鍵盤がドです。 |
| C 37 | (左が分からない) |
| T 38 | 親指を出して置いた場所がドです。 |
| C 39 | ププーの左側？ |

ハ音の場所に消しゴムを乗せ、その音を鳴らししてもらいながら、音の協和を感じられるように『ゲーチョキパーでなにつくろう』を演奏し、ハ音を弾き続けても協和する曲でアンサンブルの体験を組み込んだ。それまではランダムにハ音を弾いていた子どもたちだったが、その曲を演奏し出すと、拍に合わせてハ音を弾くようになった。協和音に対する好みについては生得的なものに近いと言われており、協和感は早くから発達すると考えられている。⁷⁾ また「不協和にたいしては嫌悪の表情や笑いの反応をみせるようになる。(中略)子どもは五歳から大人に

なるにつれて、和音進行の異常のような音楽のより難しい側面が分かるようになる、とスロボダは結論している。」と述べられている。⁸⁾ 本プログラムでもT34、C35にみられるように、不協和音であるクラクションに似た音を鳴らすと子どもたちは笑って反応した。

【B幼稚園児】の事例①

図表5

| 発言者 | 発言（行動）内容 |
|-----|--|
| C55 | ピアノの内部映像が映し出されると会場から「ワー」という声がする。 |
| T56 | ピアノを探検してどうでしたか？ |
| C57 | すごかった。 |
| T58 | どういうところが？ |
| C59 | いっぱい毛糸みたいなのがついていたところ。 |
| C60 | ピアノの中がギターみたいだった。 |
| C61 | いっぱいある線がバイオリンの弦みたいだった。 |
| C62 | いっぱいあったのが毛糸みたかった。 |
| C63 | （客席にいた子どもが）うーんそうだねー。 |
| C64 | ひもみたいなのがいっぱいあってすごかった。 |
| T65 | 色は何色があったかな？ |
| C66 | 黒。 |
| C67 | 白。 |
| C68 | 黒。 |
| C69 | 赤。 |
| C70 | 金色。 |
| C71 | どこ？ |
| C72 | （再びみんなで内部を見る） |
| T73 | どんな形だった？ |
| C74 | うーん。 |
| T75 | 言葉で表すのは難しいかな。 こんな形（手でクネクネ表す）だね。 大きさは？ |
| C76 | ・・・ |
| T77 | みんなで手をつないで輪になっても届かないくらいだったね。 何でできているんだろう。 |
| C78 | 木、黒い木。 |

ピアノの内部映像をウェブカメラで映し出した。C59の子どもが「～みたい」と発言したことにより、後に続く子どもたちもC60、C61、C62、C64のように「～みたい」という比喻表現を使って発表した。またC70、C71、C72にみられるように、他の子どもの発言によって自分が気づいていなかったことに気づき確認するという主体的な行動も見られた。学び合いが生じたと言える。またモークは「4、5歳の子どもは、音の響きの世界の体験は、明らかに自分と現実との関係をとおして印象づけられる。子どもは、聴取したことを弁別し、解釈しなが

ら、自分のまわりの物や事と関係づけようとする傾向がある」と述べている。⁹⁾ 今回も子どもたちはピアノの弦を見て「毛糸」や「ひも」「ギター」「バイオリン」を連想し言葉で表現した。

【B幼稚園児】の事例②

図表6

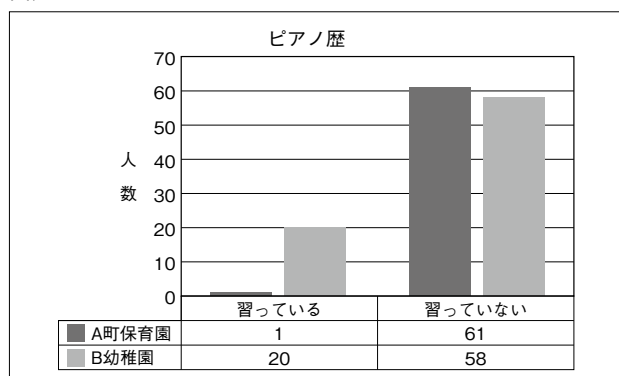
| 発言者 | 発言（行動）内容 |
|-----|--|
| C79 | （鍵盤を触るとダンパーが動くことに気付いて）おもしろーい！ |
| T80 | 消しゴムをひとつずつとってください。 右手を出して。うん？ごはん食べる方。 |
| C81 | トレモロで音を鳴らす子。 |
| T82 | ブーのまねっこしてみよう。 |
| C83 | （数名は真似をする） |
| T84 | 短い音を弾いてみましょう。 好きな音でジャンプしてみましょう。 |
| C85 | （会場笑い） |
| T86 | ゆっくり歩いてみましょう。 チョキの指で一つずつつなげて弾いてみましょう。 いろんな弾き方をすることができました。上手でした。どうでしたか？ |
| C87 | 楽しかった。弾くのが。 |
| C88 | ちょっと難しかった。 |
| C89 | かんたんだった。 |
| T90 | 鍵盤の触り方で出てくる音が違うのは分かりましたか？ |
| C91 | ジャンプして楽しかった。 |
| C92 | 難しかった。 |
| C93 | かんたんだった。 |

子どもが絵を描く順序は、点から直線、曲線、円と言われている。肩、肘、手首、指の関節の順にコントロールできるようになる。¹⁰⁾ これをピアノ演奏に置き換えて考え、T84のスタッカート奏法、T86のレガート奏法を提示した。「手先の器用さは5歳から」と言われているように、¹¹⁾ 初めて鍵盤に触る子どもには、指先のコントロールができるように鍵盤の重みを感じるところから始めるような丁寧な指導をする必要がある。

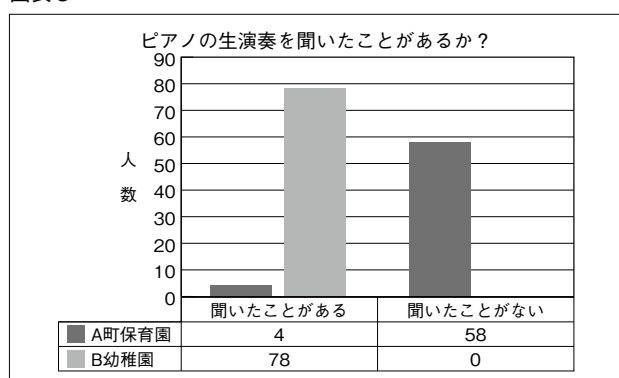
（2）アンケート結果と分析

今回体験会に参加した園児たちのピアノ歴などについて調査した。その結果、A町保育園は音楽経験がほとんどない。一方、B幼稚園はある程度の音楽経験がある、とみなせることがわかった。

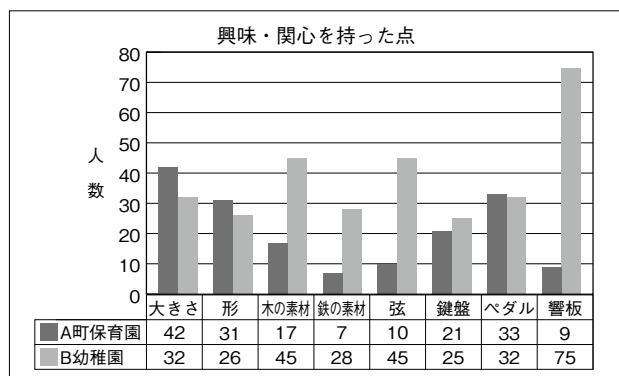
図表 7



図表 8



図表 9



図表10

| | | またピアノ演奏を聞きたいか？ | | ピアノを弾いてみたいか？ | |
|-------|-------|----------------|--------|--------------|----------|
| | | 聞きたい | 聞きたくない | 弾いてみたい | 弾いてみたくない |
| 子どもたち | A町保育園 | 22 | 2 | 22 | 2 |
| | | 91.7% | 8.3% | 91.7% | 8.3% |
| | B幼稚園 | 24 | 0 | 22 | 2 |
| | | 100% | 0% | 91.7% | 8.3% |
| 子どもたち | A町保育園 | 36 | 2 | 36 | 2 |
| | | 94.7% | 5.3% | 94.7% | 5.3% |
| | B幼稚園 | 52 | 2 | 45 | 9 |
| | | 96.3% | 3.7% | 83.3% | 16.6% |

【先生方から】

- 子ども達は音を感じることも、ピアノに触れる、音を出すという所に興味、関心が強いようだった。「触ってみたかった」という感想が多かった。(A町保育園)
- ピアノの色々な部分についての気づきはあまり強くなかったが、音や大きさには興味があるようだった。(A町保育園)
- とても興味をもち、一人一人の幼児が思い思いの気持ちを言葉で表現していた。幼児たちの生の声を聞いていただきたいと強く思ったピアノ見学会だった。(B幼稚園)
- 貴重な体験をありがとうございました。ピアノの中を見る経験は初めての子どもがほとんどでとても興味深かったようです。ただ弾くだけでなく、仕組みを知ること、より関心が高まるのだと先生の実演で学ばせていただきました。(B幼稚園)

音楽経験がほとんどないA町保育園では、探検隊の参加に関係なくピアノに高い関心が示された。また、先生方からの回答にみられたように、「音や大きさ、ピアノに触れる、音を出す」というところに興味強いことが分かった。

音楽経験がある程度あるB幼稚園では、ピアノの素材、構造的なものに興味・関心が高いことが分かった。また、探検隊に参加しなかった子どもの中で「またピアノを弾いてみたいか？」という質問に対し「弾いてみたい」と回答した子どもの割合が低かった点については、その中に経験者が含まれているため改めて弾くということに興味を示さなかったと推察できる。

「聞く」行為を受動的、「弾く」行為を能動的と捉え、「聞きたい」という受動的な関心は全ての子どもに対して高く、「弾いてみたい」という能動的な関心は音楽経験がほとんどない子どもたちに高いという傾向がみられた。

5. まとめ

今回は音楽経験に差がある2つの五歳児グループに対して実践を行うことができた。総勢140名の五

歳児のほとんどがこの体験会後のアンケートで「またピアノを聞いてみたい、弾いてみたい」と次の活動への期待や意欲をもつ回答をした。さらに、ある程度の音楽経験がある園児たちは興味・関心が素材や構造的なものに移行していることが分かった。この体験会に対して子どもの興味・関心が高まった理由は、とにかく鑑賞活動がメインになりがちな内容を、「幼児期に育みたい資質・能力」を踏まえて子どもを主役に参加させるという発想で工夫した点にあると言える。

五歳児の姿として、不協和音を感じて笑いという反応を示したこと、ピアノを探検して気づいたことを自分のまわりの物や事と関係づけて言葉で表現したこと、指先のコントロールが必要な運動は難しいこと、教師の援助行動として子どもの心を揺さぶるような【発問】や【提案】などの適切な声掛けが有効であること、集団による学び合いが生まれたことが明らかになった。

このような体験型の実践は、他の活動に対しても積極的な参加の動機づけを幼児たちに与える有効な手法だと言えよう。

6. おわりに

今回ご協力いただいた現場の先生から、「幼児たちの生の声を聞いていただきたいと強く思ったピアノ見学会だった。」というご感想を頂戴した。子どもたちの素朴で純粋な反応に触れ、改めて現場を知ることの大切さを感じた体験会であった。今後も継続して分析、検証を行い、質の高い教育を学生に提供したい。ご協力いただいたA町教育委員会及びB幼稚園に心から感謝申し上げます。

7. 引用文献・補足

- 1) 文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』チャイルド本社 7-9頁, 31-33頁, 63-65頁, 2017年
- 2) 筆者はA町教育委員会生涯学習課より町内三つの保育園五歳児を対象とした「ピアノふれあい体験」の講師を拝命した。
- 3) 財団法人地域創造『文化・芸術による地域政策に関する調査研究報告書 新「アウトリーチのすすめ」』6頁 2010年
- 4) 文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』チャイルド本社 7-8頁 2017年
- 5) 保育のお仕事【年齢別！】子どもとの接し方のポイント～5歳児編～
<https://hoiku-shigoto.com/report/trouble-at-work/age-5/>
- 6) 社団法人 全国幼児教育研究協会編『学びと発達の連続性—幼小接続の課題と展望』チャイルド本社 140-141頁 2006年
- 7) 梅本堯夫『シリーズ人間の発達11 子どもと音楽』東京大学出版会 118頁 1999年
- 8) 同上 120-121頁
- 9) ヘルムート・モーク著 石井信生訳『就学前の子どもの音楽体験』大学教育出版 147頁 2002年
- 10) 中嶋恵美子『知っておきたい幼児の特性 ピアノ・レッスン「なぜ、わからないの？」と悩む前に』音楽之友社 11頁 2016年
- 11) 同上 11頁

8. 参考文献

- 今川恭子（監修）『音楽を学ぶということ これから音楽を教える・学ぶ人のために』教育芸術者 2016年
- エリザベス・バンドゥレスパー著 石丸由理訳『リトミック教育のための原理と指針 ダルクローズのリトミック』ドレミ楽譜出版社 2009年
- 田中真介監修 乳幼児保育研究会編『発達がわかれば子どもが見える 0歳から就学までの目からウロコの保育実践』ぎょうせい 2009年
- フランセス・アロノフ著 畑玲子訳『幼児と音楽』音楽之友社 1990年